

書籍名	生成AIと脳	著者名	池谷 裕二
出版社名	扶桑社新書	発行年月	2024年11月

3年ほど前、自宅近くの商工会議所(パソコン講座)でChatGPTの講座を受講しました。慣れるほど利用範囲も拡がり、現在では便利使いで大いに助けられています。今後急速にあらゆる分野でAIは社会に実装されていきます。「生成AIを使いこなせるかどうか」で人生は変わる、というのが本書の主旨です。本書に関してA4用紙1枚のメモを作成しました。その内容をAIに趣旨を保ったまま構成を整理し、大幅に短くするように指示を出しました。下記はAIの作成したものです。

生成AIは、もはや流行語や一時的な技術革新ではありません。インターネットやスマートフォンがそうであったように、今後はあらゆる業務や意思決定の前提となり、「生成AIを使いこなせるかどうか」が、個人や企業の競争力を左右する時代に入っています。本書の著者・池谷裕二氏は、脳神経生理学の第一人者であり、科学技術振興機構が推進する「脳AI融合プロジェクト」の代表を務める研究者です。AI研究の最前線に立つ著者が、生成AIの可能性と限界を脳科学という人間理解の視点から冷静に読み解いていきます。

2016年、AI囲碁ソフトが世界最強棋士に勝利した出来事は、AIが人間の知的作業を超え始めた象徴的な出来事でした。AIは膨大な選択肢を瞬時に計算し、最適解を導き出します。これは、データ分析や業務効率化、企画立案など、ビジネスの現場でもすでに現実の力となっています。一方で、AIがいかに高性能になっても、人はAI同士の勝負や成果物には強い関心を示しません。私たちが価値を感じるのは、迷い、失敗し、試行錯誤する「人間らしさ」に裏打ちされたプロセスです。本書は、AI時代において人間が担うべき役割や、付加価値の源泉がどこにあるのかを示唆してくれます。生成AIとどう向き合い、どう使うか。単なる技術解説にとどまらず、仕事の質や判断力を高めるための思考のヒントが詰まった一冊です。AI時代のビジネスを考えるうえで、ぜひ手に取っていただきたい良書です。

いかがでしょうか？数年後、書籍を購入する折に、この本は「人間」ですか「AI」ですかと尋ねることになるのでしょうか？

岩 城

2026年新年明けたと思ったら、1月6日朝10時過ぎに地震がありましたね。震源は鳥根県東部、マグニチュード 6.4、阪神・淡路大震災を思い出し、ドキッとしました。それぞれ、忘れられない記憶がありますでしょうからここでは言いません。ただいつだって、どこだって災害は起こるといって、それに気づかされた1995年であり、その後2011年には東日本大震災が、能登は2024年1月地震、9月豪雨と被害が度重なっています。防災専門家の佐藤唯行さんは、専門家であるが故に余計に、地震や津波で多くの犠牲者が出る事態が繰り返され、そのたび、無力さを感じたと言います。災害に備える気持ちは、時が経てば薄れ、経済的に備えられない人もいる、どうしたら防災に取組んでもらえるかと。

それなら備えないことを前提に考えたらどうかと考えた。モノやサービスが災害時も役立つようにデザインされていたらいつの間にか備えができていく社会になるのでは？ 2014年に提唱した佐藤さんは、この考えをネットや学会で発信。大学教授らと18年に一般社団法人フェーズフリー協会を設立し、共感する企業の要請で認証制度も始めた。

フェーズフリー認証を受けた企業・法人一覧の中に、「小清水町」がある。北海道北東部、オホーツク海に面した人口約4,300人の町。フェーズフリーを形にした防災拠点型複合庁舎には、役場をはじめ、ジムやカフェ、コインランドリーが入り、多くの町民でにぎわう。きっかけは2018年9月に起きた北海道胆振東部地震。道内のほぼ全域が停電する「ブラックアウト」が起きた。厳冬期なら暖房が使えず、町民の命に関わる事態になったらうと、総務課長。どんな状況でも安全、安心に過ごせる施設の必要性を痛感する。この頃町は、コミュニティーの再生と老朽化した役場の建替えという2つの課題に直面。この課題をまとめて解決したのが、フェーズフリーだった。

日常と非常時のフェーズ(局面)をフリーにし(なくし)、普段使うモノやサービスをよりよくして、災害時にも役立つ考え方。

「ワタシノ」と名付けられた庁舎は2023年5月に開館。災害時、ジムは避難所、カフェは炊き出しの場になる。ランドリーも非常用電源と貯水で利用可。庁舎1Fは温泉熱による床暖房を利かせ、全体で最大800人が3日間  
発行所:ライフデザイン研究所 編集人 伊藤 過ごせるように。日常の延長に防災がある日常、私も!

所在地:〒541-0048 大阪府中央区瓦町3-4-87サビィル2F Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067

編集後記

